

No. 267

# 全 仏

4 / 56



## 常用漢字

▼シャレで書く『曹洞』が世の中に出たということになる。戦後三十五年間、一つの形をつくっていた「当用漢字」が消え、こんどは九十五字ふえた「常用漢字」となる。

▼この常用漢字は「一般の社会生活で漢字を使う際の目安」と。そこで曹や洞がふえた字の中に加ったわけであるが、その他にも和尚の尚や、棚、喝、鉢、厄などの字もふえた。

▼世間では仏教用語はむずかしい、また印刷泣かせでも通っている。それほど社会生活の中で仏教は必要ないのかと、常用漢字表をみていると感じてくるが、漢字に限らず、仏教の教え、言葉、作法すべてに工夫をする時代ではなからうか。親しめる仏教のために。

## 強飯式(日光山輪王寺)

― 解説八面にあります ―

全日本仏教会

# ルンビニー復興計画現地の状況

## 全仏特使 加藤海晃師の報告



(右から) ダルシヤン開発準備委員会委員長、タバ首相、奏全仏会長、通訳と手前が加藤海晃師

釈尊生誕の聖地ルンビニーの復興については、昭和五十三年十月開催のWFB日本大会において、「ルンビニーの完全復興」が決議され、ブーン会長より一ドル募金運動も提唱された。

これを受けて昭和五十四年十月開催の全日本仏教徒会議茨城大会においても、「ルンビニー復興に協力しこの運動を強力に展開しよう」と決議され、その具体案は事務局に一任された。

全仏事務局では、常務理事、国際専門委を中心にルンビニー復興準備委員会を組織し、現在まで三回の委員会を開き、その具体策の協議に入った。

生誕の聖地復興は、日本仏教徒としても賛意を表わすものの、その計画にどう協力できるか、どこまで協力すべきか準備委員会でも見当がつけがたいというのが正直な経過のようである。

そこで、事務局としては、現地における復興計画の実際と、その進行状況、ネパール政府の本会への要請などを確認すべく、全仏の奏会長がネパールへ行かれるのに合せて、前総務局長・加藤海晃師(日蓮宗総合企画部長)を全仏特使として現地に派遣し、奏会長とともにつづき

に現地調査にあたっていただいた。以下は、加藤海晃師の現地視察報告。

【ルンビニー視察報告】加藤師 二月十三日早朝成田を出発、十四日にはカトマンズに到着した。十五日に奏会長とともに、スリヤ・パハドール・タバ首相と会見し、首相より「ネパールの国家計画としてのルンビニー復興にあたり、世界の仏教徒の援助、特に日本仏教徒の援助協力を強く要望します」とのお話を承

まわり、これに応じて奏会長も「釈尊の聖地の復興について、できるだけの応援を惜しむものではない。仏教徒のみならず広く日本国民の代表にも協力を求め、

日本のルンビニーコミュニティを作るよう全仏としても協力し、その中心となってこれからの計画に邁進したい」と述べられ、首相もたいへん感激しておりました。

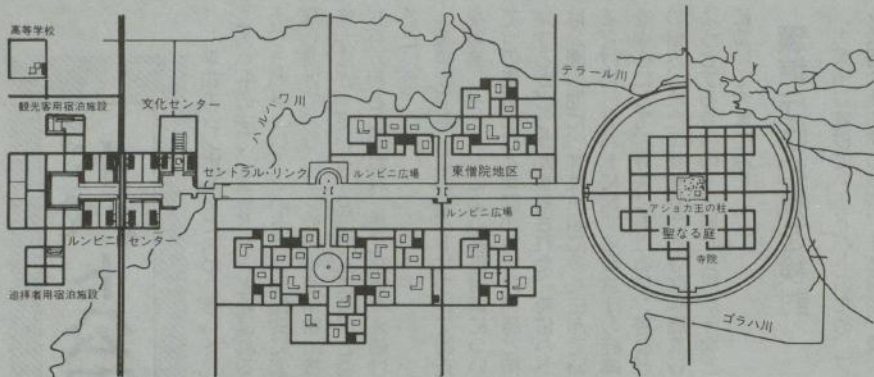
翌日より(十六日)、この計画のネパールにおける窓口であるK・B・シャヒ外務大臣、あるいは直接の担当である開発委員長のロック・ダルシヤン氏とも懇談を重ねるとともに、ルンビニーの現地視察を行ない、まず現地にある関連開発事務所を訪ねました。

そこで、資料の蒐集、復興計画の概要説明、現在までの進行状況を伺い、また日本への期待というふうなものについて話し合いました。

それによりますと、復興計画の該当する区域は南北五キロ、東西一・五キロという広大な土地です。この土地の中には居住者もありませんが、他の土地に移ってもらい全面積を国家で買い上げてあります。すでに境界線もはっきり指示されヴァイラフからタウリファに通ずる道路もすでに国家舗装されております。

図を参照していただきたいと思いますが、ルンビニーセンタールからアショカ王の石柱のある主要道路も完全舗装され、十メートルおきに植樹され立派に育っております。

「聖なる庭」は直径一キロの整備が予定されて、ここからルンビニー広場へ通ずる最初の部分に、礼拝所二ヶ所が建設予定です。また、ルンビニーセンタールに通ずる道路の東西に僧院地区があり、ここに各国への土地提供が予定され、それ



これらの寺院建設が期待されております。日本には一六〇平方メートルの土地提示がされてきております。南にきて、ハラハワ川に橋をかける計画……………

ルンビニ一復興計画の図面（右の円内中央にアシヨカ王の柱がある）

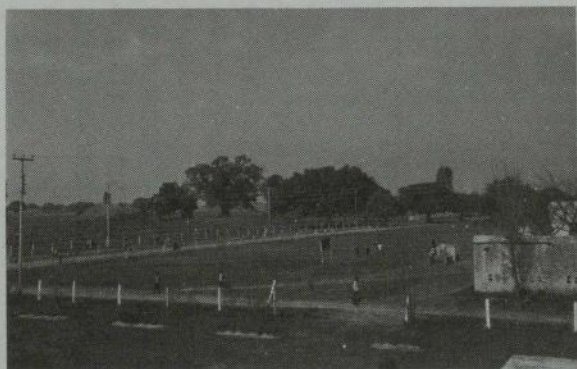


復興計画の模型説明をうける

画があり、WFB本部（タイ）が企画をしております。さらに、ルンビニセンターには給水塔、巡拝者等の宿泊施設、銀行などが予定されております。

以上が計画の概要ですが、これにかかる費用は、従来から百億とか四十億とかの未確認情報が耳に入り、私どもも判断に苦しんだところであり、今回のねらいもこの辺にあるわけです。

まず、「聖なる庭」は四億八千万円が積算されております。現在は仮の土手が作られていますが、工学的調査もすすんでおりませんが、二番目に二ヶ所の礼拝所ですが、八千万円の積算、そしてハラハワ川にかかる橋が七千万円と積算されてお



ります。

次に、給水塔ですが、これが遠くからみて一番目立つもので約一億三千万の積算です。主要道路の東西の僧院は、先に述べましたように、土地が提供され、ここに各国の寺院を期待しています。ルンビニセンターについては、ホテル、文化センター、その他について開発委員会が個々に接渉を重ねている段階です。

その他に、総合開発的には、電力、給排水、電話施設など、約十億円位の費用も見込まれ、お願ひできないであろうかということでもございました。

計画の概要、費用の見込みにつきまし

……………  
計画がすすめられ、植樹もされた

て、むこうで得ました資料をもとにご報告申し上げますが、何と申しましたも膨大な費用のかかる計画でございますので、ネパール当局としましても、この計画の中で、どこまでやってほしいという希望はもちろんあるわけですが、日本の仏教徒にも事情がありますし、全仏としての事情もあるわけでございます。

むずかしい報告となってしまいました。日本の仏教徒が、この聖なる地を復興いたしますために、どのような方向で協力していくべきか、検討していただくための資料としていただければ幸いです。

（文責文化部）

## ルンビニ復興の 準備委員会ひらく

第三回ルンビニ復興準備委員会が、三月九日午後一時より、東京・芝の明照会館で開かれ、豊田総務局長挨拶のあと議事に入った。

一、企画委員の選任については、柳了堅、西村輝成、織内七郎、佐藤良純、小峰一允、鈴木道雄、田中亮三、加藤海晃、植松威、全日仏青事務局長の名師を選出した。

一、加藤海晃特使より、ルンビニ復興の現地視察の詳細報告がなされ、質疑応答があったが、結論として、秦会長のお言葉を体して、拡大した委員会を構成し、募財目標を定め、現地視察（各宗代表）や総長会での検討を加え、全仏の理事承認を得るといつことで了承。

# ドバト公害を考える

「平和のシンボル」といわれるハト。このハトの中で、通称ドバトと呼ばれるカワラバト（以下ドバト）が全国的に繁殖し続けており、フン公害や農作物に被害が広がっている。全国で三百万羽とも五百万羽ともいわれ、まだまだ増え続けているという。

環境庁でも、このドバトについて調査を実施し、「ドバトによる被害対策について」の審議会などが開かれ、狩猟鳥と指定するかどうかを検討された。特にハトは公園の他に、神社仏閣に多く住んでいるだけに、ドバトに関する環境庁の経緯を中心に、寺院におけるフン害などの悩み、またエサを与える寺院や追放しよととする寺院の「信仰か公害か」などについて考えてみたい。

## 環境庁は狩猟を検討

大繁殖し続けているドバトのため、フン公害や農作物の被害、また畜産、個人生活にまで害がおよんでいる。こうしたドバト公害を防ぐには、繁殖したドバトそのものの数を減らしていかなければならないが、どうやって減らすかというところが非常にむずかしい問題である。

都道府県からの要望もあり、環境庁では一昨年の八月に「狩猟鳥獣にドバトを

加えることについて」の公聴会を開催した。この席では狩猟に賛成が七、反対二という結果で、日本野鳥の会や日本鳥類保護連盟も「射殺もやむなし」との賛成意見が出された。逆に全日本猟友倶楽部は、レースバトとのトラブルがあると指摘、愛知県は人口密集地での銃の使用などで反対した。

この問題は、自然環境保全審議会鳥獣部会に諮問され、鳥獣部会小委員会でも検討が加えられ、鳩レース協会など専門家の意見聴取や都道府県の被害調査が報告された。

この結果、「ドバトの生息数を調整する必要がある。被害防止のため狩猟鳥に加えることも考えられるが、次の問題点がある。①銃の使用禁止地域にドバトが多く生息している。②レース鳩などの判別は容易でない。……狩猟鳥に加えることを見合せ、当面は駆除を積極的に行つことにより対処するが適当である。」との答申がなされた。

## 平和のシンボル

狩猟に鳩レース協会等からクレームがついた他に、もう一つの問題として、ハトは平和のシンボルとして、また古くから社寺の境内にいる信仰の鳥としてのイ

メージがあり、エサを与えて参詣者に喜ばれているケースもある。

まして寺院の境内において銃を使用するなどは考えられないことで、「境内でハトに銃口をむけたら仏罰で死ぬてエ」と京都の大本寺からのお叱りや「狩猟鳥にするほどの害があるのか」というように、各本山等ではほとんど冷やかであり「たしかにフン害で困ることはあるが、特別に駆除しようということはない」という状態である。

## ドバトによる被害

実際どのような害が報告されているのであろうか。

- ①農作物（米、麦、豆類、野菜など）
- ②畜産（飼料の食害、疾病感染など）
- ③生活（フン害、鳴き声など）
- ④健康（オーム病、アレルギーなど）
- ⑤その他（建物の汚損など）

一般的には以上のように多様にわたって被害報告がなされている。寺院の場合にはフン公害による建造物の汚損が特に多く、立場は上は平静であるが困っている寺院は多数あるようで、そのほとんどがこれといった決め手がなく「専守防衛」の型をとっている。

関東の本山寺院では、平間寺約三百、新勝寺約五百、浅草寺約二千、護国寺約三百、本門寺約二百、増上寺約百羽位の生息数といわれ、本堂などの汚染がひどく、汚れによる腐敗や屋根の銅板がくさるなどの被害が報告されている。

## 寺院のドバト対策

各本山におけるドバト対策としては、①業社と契約してフンを処理している。②避妊薬をエサに入れる。③鳩舎の設置と管理。④キシ剤の使用（二オイ対策）⑤金アミによる防衛。⑥音や物によってハトを駆除する。

などが現在行なわれているが、関西の本山をみても、ほとんどが本堂を金アミで囲つなどの予防をしている。しかし、それまで鳩のいなかった寺院では、その対策に苦慮しているよつである。

A寺（東京・真言）「急に五十羽位に増え、本堂の中まで入ってくる。どうしたらよいのか教えてほしい」

B寺（山梨・日蓮）「急に増えたと思っていたが、畑が荒らされるので寺でなんとかしろということに困っている……」などの声が聞かれるようになってきた。

## ドバトは「有害鳥」

このように野性化したドバトによる被害は全国的に広がり、寺院にも大きな影響をもたらしてきている。

環境庁より、狩猟鳥とするかどうかの諮問を受けた自然環境保全審議会は、二月十七日に狩猟鳥にしない旨の答申をした。この中で「被害の多い地域では有害鳥として積極的に駆除し、公園、社寺では必要以上にエサを与えないように対策すべきである」としている。

環境庁では、これをもとに指導基準を検討し関係団体に協力を求めていく。

# 文化財保存修理所(京都)

日本で初めての総合的な文化財修理所として昨年から業務を始め、国宝、重要文化財、都道府県の指定文化財などの修理、保存措置および模写などを行うとともに、調査研究、技術者養成などを目的としている「文化財保存修理所」を訪問。

三十三間堂、智積院、妙法院に囲まれるように、京都市東山七条の京都国立博物館の広い敷地の本館裏にあり、鉄筋コンクリート地上三階、地下一階のすばらしい設備の建物である。



①

## 文化財の総合修理

「いままでは、それぞれの工房で修理してたわけです。それが総合的にできるようになり、仏像修理の美術院、表具技術の国指定業者、模写のグループ、合成樹脂で模造制作する京都科学

標本会社などが入っており、総員七十名位ですね。年度の関係で今(三月)が一番忙がしいです」と、博物館管理課の織田庶務係長が概略を説明してくれた。

修理所は管理の伴文部事務官が「火災盗難などに心強いんです。修理技術者のお互いの技術提携もできますし、ヨーロッパからも研修にきますよ」と国際交流にも力を入れているなどの説明をうけながら案内してもらった。

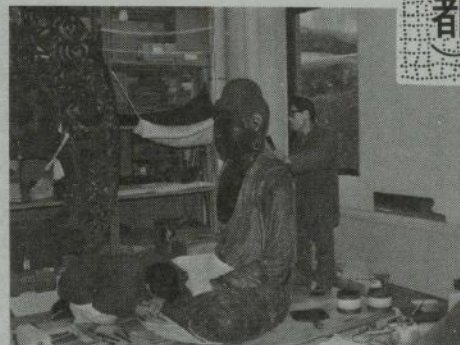
## 仏像を生きかえらす

まず、仏像や絵画の大敵である虫や



布をさがすだけでも大変だという...

仏像修理現場



カビを殺菌するくん蒸設備をみたあと彫刻室へ案内された。

【彫刻室】 大きな重い扉を開くと一部吹抜の部屋にノミの音が響く。全身に白布をまかれた仏像、指先の破損を修理中のもの、あるいは顔、胴、蓮台など、観音像をはじめ数体が修理中、大きなものが目についた。「古いところのバランスに神経をつかいますし、補修は大変な作業です」とのことであるが、作業はまず、解体の写真からというところで、一体の仏像もあらゆる角度から撮影される。

「三百年周期で大修理が必要。やはり持物や指などのでっばりの破損が多いです。それを生きかえらすわけです

ね」と語る言葉は自信にみちがっていた。  
【漆工室】 うるしの臭いが鼻をつく。「特徴がでているし、時代は塗りでもわかる」というように、地味な作業であり熟練を要するところだ。現在は延暦寺のものが多いそうだ。

## 次の代まで考える

【装演室】 三部屋あり、それぞれ絵画、書跡などの表具技術の修理を行なっている。第一装演室で宇佐美氏にお話しを伺ったが、若い人たちの多いのが注目された。

「二十十年くらい若い人が増え、人選しているんです」とのことであったが、大きな涅槃図、絵巻物、古文書など細かい作業を黙々としている。

「百五十年から二百年のサイクルで修理すればよい。もちろん記録はとりますし、次の代のことまで考えて修理するわけです」(宇佐美氏)。

うら打ち作業なども綿密に行なわれているが、着物の修理(袷袷・衣なども)、布を探すのは大変なことで、これも将来にもいつか用意をしておくとのことであった。

この日は、樹脂処理室や模写室などが見ることができなかったが、それぞれすばらしい文化財技術の伝承と、室温システムなどの設備を見学し、仏教文化財の保護に力を入れねばと痛感させられた。

# 教化担当者会議開く

## テーマ 現代人の不安と仏教

第五回各宗派教化担当者会議が、三月十二日午前十時半より、京都の本能寺文化会館で開催された。WFB日本大会開催のため、昭和五十年以来久しぶりに行なわれたが、三月は宗会開催中の宗派も多く、十二宗派の教化担当者と文化専門委員など二十九名が参加した。

この会議の目的は、各宗派の教化伝道を全一仏教運動として如何に展開していくか、また、各宗の情報交換、連絡など



熱心に討議される教化担当者会議

であり、今回のテーマも「現代人の不安と仏教」とし、各宗派のテーマに対する対応と今後が話し合われた。

会議は、日野事務総長の挨拶のあと、国立民族学博物館教授・岩田慶治先生の「現代人の不安と仏教」の基調講演が行

### 不安は文化の壁などが原因

#### —講演要旨—

「現代人の不安と仏教」ということですが、どのような点に不安があるのか、日々の問題から世界全体に至るまで無数にある中で、大きな問題は何かを考えてみたいと思います。

文化のゆがみ まず、急速な科学の発展と宗教・哲学などとのゆがみの大きさがあげられます。原子力開発は発達しているが、人間本来の社会は発達せずアンバランスが生じている。仏教は世界観をもっているが、世界はどうなっているかという点からみると一つの問題点となります。星のとんがり科学なら、へこみが仏教や哲学といえます。

文化の壁 現実の世界に目をむけるとそこには言葉、価値観、習慣などさまざまな文化の壁があり、そこにも不安の原因があります。

文化は内からみれば便利だが、外から

なわれ、午後からは塩入亮達師（聖観音宗）を座長にティスカッションがなされ基調講演に基づく質疑応答や、各宗の教化問題などが討議された。熱心な討議のあと、安本国際文化局長が閉会挨拶をして終了したが、問題点を整理することや具体的なものにしようとするべきであるとの指摘が出された。

（出席宗派）天台宗、智山派、仏光寺派、浄土宗、西山深草派、曹洞宗、念法真教、和宗、聖観音宗、本願寺派、禅林寺派、日蓮宗。その他に全日仏婦、全仏文化専門委員、全仏事務総局。

みると実に不便で、民族の壁、社会の壁などがあり、宗教などは本来なら共通の場を与えるもので、壁があつてはいけないものだが、現実には宗教間に大きな壁があるように思える。これら人類文化の壁も不安の要因となっている。

世界の欠落 スリランカを例にみると仏教・ヒンズーの他に土着の信仰が目に付きます。つまり、神がかりの信仰が残っており我々の世界を他界（あの世）と現世（この世）とすると、神がかり信仰は他界をみせるところにあるのではないかと思えます。人類文化の背景をなす世界の欠落に、神がかり信仰が一段かっ

ているわけです。  
世界の全体像を直視する力が大事なのに、宗教はそれをしていません。経済学者のヴォルディングのいう「宇宙船地球号」などの考えはそこにでてくるのでは

ないでしょうか。

脚下照顧 つまり運命共同体として、我々の地球はどう見なければならぬのか、ということ明らかにしなければならぬわけですね。それには、まず自分の足の下をみるといいことがあります。一つは外に出たい欲求があり、奥にあるもの、目にも見えないものを見たいという欲求があるわけです。

自分の手で作る 巡礼なども一まわりしてもどつてくる、自分の足元の確認をするという欲求があり、そういう欲求を自分の手で作るという欲求がでてくるわけです。つまり、マンタラを作ろうという欲求と同じで、こういう心がすべての人の中にあり、そこに現代の不安が複雑に生まれてくるような気がします。

## 寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (841) 4965

# 同和宗教者結集開く

## 同和問題解決へとりくみ決議

宗教者、宗教団体が、同和問題解決という共通の課題をもって一堂に会す「同和問題にとりくむ宗教者結集々会」が、同会実行委員会の呼びかけで、三月十七日午後一時より、東京の砂防会館に一千名が参加して開催された。

開催にいたる経過は、五教団連絡会議（大谷派、本願寺派ほか）で協議されたあと、仏教では曹洞宗、妙心寺派、智山派、浄土宗、豊山派、天台宗が加わって集会実行委員会が設置され、その呼びかけで開催に至った。

行なわれ、作家の水上勉氏が「私は寺を破門されよかつた」など、宗教界が同和に取り組む弱さを批判しながら同和問題を訴えた。

このあと議長団選出、主催者挨拶に次いで、解放同盟の大賀氏が「同和の情況と宗教界への要望」を述べた。

経過報告のあと、大谷派の橋師より基調提案がなされ、妙心寺派などから意見発表も行なわれた。そして、宣言が採択されたあと、「現実の同和問題の実体をふまえ、その生活、労働、教育の問題等につき、部落問題の解決をはかるための法

の相互的改正と運営改善に積極的に取り組むこと」などの決議が採択されて終了した。  
集会終了後に、代表四名が自民党幹事長のところへ決議文をもって陳情に行った。

## 同和特別委員会

第十回同和特別委員会は、二月二十五日午後一時より、東京・芝の明照会館で開催され、「同和問題にとり組む宗教者結集々会」について協議された。

一、五教団連絡会議（本願寺派、大谷派、日本キリスト教団、天理教、立正佼成会）からの呼びかけに対し、同和特別委員推薦の八宗派が実行委員として、教団名をつらねることを確認。

一、協賛金については、同和特別委員

## 同和問題推進のために

同和特別委員会委員 橘 了法

民主主義と基本的人権を守るといふ平和憲法は、人間のなかに上・下がなく、人から侵されることもなく、人を侵すこともなく、太陽とともに動き、夕べには一家団らんの日暮しのできることを目指すことだと思います。

ところが、私たちのまわりには、いまだに職業や、性別、あるいは学歴や家柄などによって、人間が人間として

生きてゆくための、ごく当りまえの事柄が当りまえとして通じない事実が現実としてあるのです。

江戸時代に一部の人たちは、徳川幕府の過酷な身分制度の下において、最下層の身分として位置づけられ、職業住居、婚姻、交際、服装にいたるまで社会生活のあらゆる面で、厳しい差別扱いをうけながら、一定の区域に集落

を形成して生活してきました。この歴史的経緯を持つ集落は、今日、「同和地区」または「部落」と呼ばれています。

今日の社会においても、なお、同和地区の人たちが、江戸時代の古い身分制度に由来する差別によって、就職や結婚、近所つきあいなどで阻害されたり、不安な貧しい生活をよぎらなくされているという深刻な実態があります。

このような、当りまえでない実態は近代社会において、一日もあってはならない重大な社会問題であり、このことが今日の同和問題なのであります。

推薦教団より自発的に五万円以上を集金する。

一、動員については、総動員数一千名のうち、半数を全仏加盟教団より出すこととて八宗派に割当てる。

一、他の加盟教団については、全仏よりの文書を添付し集会案内をする。

一、予算等の概要について大谷派より報告。

（出席者）朽木明暁、橘了法、松藤誠哲、鴨志田秀純、鈴木道雄、久保井恭彦、伊藤俊彦、小峰一充、近藤玄鶴、山北光彦、高橋誠実、善村一観、斉藤价洲

## 仏教伝道賞贈呈式

第十五回仏教伝道文化賞（仏教伝道協会）の贈呈式は、三月十七日午後一時半から、東京・芝の仏教伝道センタービルで行なわれた。

今年度の授賞者は、伝道文化賞に、華厳教学の第一人者である鎌田茂雄東大教授と、東大寺大仏殿修復に管長として功績のあった清水公照華厳宗前管長。功労賞には、パリ語の水野弘元駒大副学長が選ばれ、それぞれの賞を贈呈された。

## 哀 悼

中野 顕文師（全仏評議員）  
三月二日遷化。七十四歳。池上大坊本行寺住職。日蓮宗宗務院財務部長、宗会議員を経て、立正育英会理事長。永く全仏の評議員もつとめられた。

# 諸宗教代表者のつどい

## ローマ法王「平和は宗教の力で」



ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世は、二月二十三日、日本を初めて訪問。多忙な日程の中で、二十四日午前九時半より、駐日ローマ法王庁大使館聖堂で、仏教や神道などの諸宗教代表と接見した。

ローマ法王に接見する鑰淵理事長

### ＝表紙の写真＝ 強飯式(日光山輪王寺)

日光山古儀の一つ、「飯(めし)を強(しい)る」儀式の意で「日光責(せめ)」ともいわれる。

輪王寺三仏堂で執り行なわれるが、内々陣では声明の梵音のなかで三天台行の秘法が修せられ、その間、日光山秘法採燈大護摩供が厳修される。これが終ると堂内が一段と明かるく点灯され、法螺の音と共に山伏姿の強飯僧達

「諸宗教代表者のつどい」は、全仏の

が、大杯・三升大飯碗・菜膳・金甲と次々に受者の頭上に戴かせる。最後には堂内大震動の内に大キセル・ネシリ棒・金剛杖などを手にした強飯僧が駈出て、大声で「めでとう七十五杯」と喚ぎ、頂戴人の七難即滅・七福即生・四魔退散・諸願如意を祈り儀式が終了する。古来公卿・大名から庶民に至るまで肝を冷やしながらい拝受した儀式である。

本年は四月二日(木)午前十一時・午後二時の二回奉修されます。

世界の宗教者が一致協力して、真の平和と幸福をもたらすよう努力せねばなりません」と挨拶し、記念品を贈った。これに答えて法王は、マルコ伝などの言葉を引用しながら「皆さんは、伝統ある知恵の継承者であり守護者です。人間の尊厳のために皆さんと協力するもので

### ベアトリスさんに全仏杯!

#### 第二回仏英研スピーチ・コンテスト

仏教英語研究会(仏英研)花山勝友理事長)では、第二回スピーチ・コンテストを、二月二十一日午後一時半より、東京・六本木の国際文化会館で開催した。この大会はスピーチ・コンテストというが、「スピーチを競うものではなく、仏教の研究を英語で発表する場であり、門



全仏杯をうけるベアトリスさん

す」と挨拶された。このあと代表の方々と個々に挨拶をかわし、記念のメダルを贈り、互いに世界平和のため心を一つにして協力し合うよう言葉をかけられ、記念撮影のあと退席された。

戸を広げて充実させたい(浅川会員)という英語による仏教研究発表会で、外人を含む参加者の熱弁が展開された。前回より規模、発表も充実し、その中から、不立文字、禅の研究、日本の教えをを発表したベアトリス・カバスタ二さんが栄えある全仏杯を手にした。その他に入賞者に仏教伝道協会展杯、仏英研杯など賞品多数が贈られ盛会であった。

#### 事務総局録事(三月)

- 二日 解放同盟全国大会参加
- 三日 日宗連理事会
- 六日 WCPFR委員会出席
- 九日 ルンビニー準備委員会
- 十二日 第五回各宗派教化担当学会議
- 十六日 局内会議
- 十七日 仏教伝道賞贈呈式出席
- 同日 同問題宗教者結果集會
- 二十六日 I B E C 理事会出席
- 三十一日 局内会議

昭和五十六年 四月一日発行  
四月号 第二六七号

発行人 日野照正  
編集人 安本利正

発行所 財団法人 全日本仏教会

東京都港区芝公園四丁目七番三  
電話〇三(四三七)九七五